

策定年月	令和5年6月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：奈良県広陵町

（作成主体：広陵町地域農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

広陵町地域農業再生協議会では、主食用米の需要減少が見込まれるなか、水田における主食用米から他品目への作付転換を推進しており、小麦を重点品目として推奨している。農地の集積の推進、大型で高性能な農業機械の導入、小麦の実需者との連携により、小麦の生産拡大を図り、国産化を推進する。

	現状と課題	課題解決に向けた取組方針
生産性及び収益性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場が分散しているほか、不整形地や狭小な農地が多く、作業効率の観点で支障が発生している。 ・百済地区は、浸水想定地区で、河川沿いであることから、降雨時に浸水しやすく、土壌湿潤害が発生しやすく、また圃場準備時等の作業性が劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の集積・集約の推進 ・百済川向地区で、圃場整備（21.8ha）により区画拡大を実施。（令和4～7年度） ・集約・区画拡大された農地に、大型で高性能な農業機械を導入し、生産性向上を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の遊休農地対策から始まったことから、小麦単作が多い。（R4年産小麦単作面積：64%） ・小麦連作圃場では、地力の低下や雑草の多発生が問題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦・水稻の二毛作の推進による産地の収益性の向上。 ・小麦・水稻の二毛作を行う圃場では、作業適期幅が狭くなることから、効率的な作業を必要である。 ・関係機関の協力のもと、土壌診断等に基づく適切な肥培管理や排水対策等に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・近年生産を開始した経営体では作付規模が小さい。（2ha程度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産面積の拡大によるスケールメリットによる生産性の向上と労働時間の削減を図り、経営を安定化。
農地保全	<ul style="list-style-type: none"> ・広陵町は、耕地面積に占める水田の割合が県下でも高い水田地区であるが、近年、農業従事者の高齢化や担い手の不足による農地の遊休化が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各地で集落営農組織等の担い手を育成し、地域の遊休農地対策として、小麦の作付けを推進。
実需者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者からは、学校給食用パンや地域特産品の三輪素麺への加工適性が高い、県産の強力系小麦が要望されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の中力系品種「ふくはるか」から強力系品種「はるみずき」へ品種切り替えを進める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者からの県産小麦への需要が高く、増産が要望されている。 ・品質のバラツキなど、高品質な小麦の安定供給ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積拡大により増産を図る。 ・品質分析を実施する等、関係機関と連携して、高品質生産に取り組む。 ・複数の実需者（小麦）と意見交換を行う場を設けることにより、需要に応じた供給体制の整備に努める。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

- ・JAならけん（生産者団体）に集荷・販売を委託しており、県全体での品質・規格の均一化や、実需者への安定的販路確保が図られるため、今後もこれを継続する。
- ・JAならけんを通じて、奈良県麦民間流通地方連絡協議会等において、産地の生産事情や生産物の品質評価結果の情報提供を行い、需要者の生産量・品質に対する要望を把握し、相互に情報交換を行うことで、需要に即した良品質小麦の生産に向けて取り組む。
- ・全量が [] を経由して、主として県内の需要者へ販売されており、[] とは、直接意見交換等を行うことにより、産地と実需者との連携を深める。

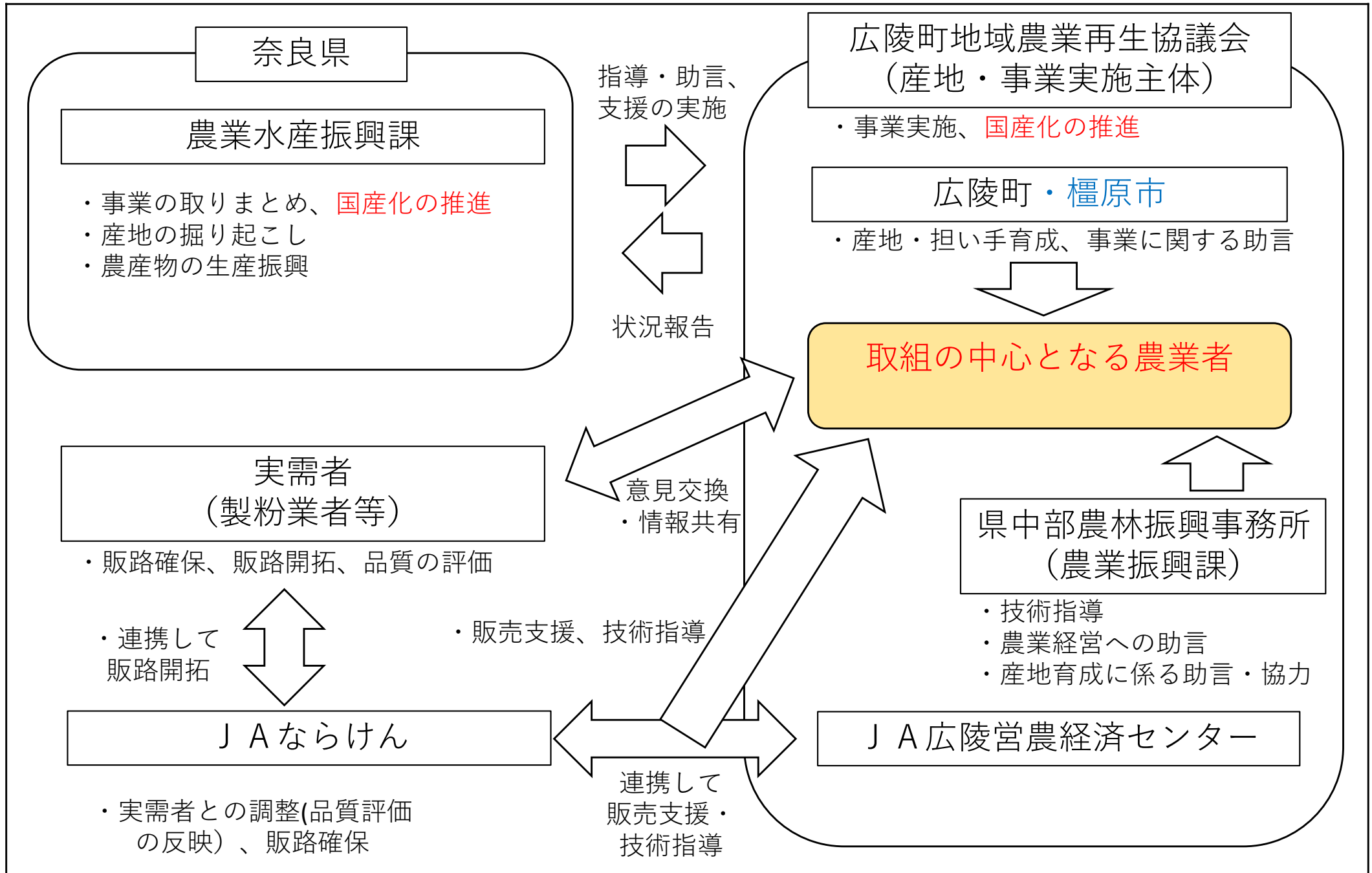
産地の国産麦の取扱量

生産者名	品種名	現状 (R4年産)	おおむね の目標値 (R8年産)
広陵町地域農業 再生協議会	ふくはるか	44.1t (12.6ha)	0t (0ha)
	はるみずき	4.0t (1.1ha)	87.5t (25.0ha)
	計	48.1t (13.7ha)	87.5t (25.0ha)

実需者の国産麦の取扱量

実需者	品種	用途	現状 (R4年産)	おおむね の目標値 (R8年産)
非公表	はるみずき	非公表		
	ふくはるか			
	はるみずき			
	ふくはるか			
	ふくはるか			
	はるみずき			
	計		48.1t	87.5t

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。